

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	(株) 仙台放送
意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	<p>逼迫する周波数環境のなか、需要の増加が予想されるワイヤレスブロードバンド用の周波数割り当てについては、デジタル技術による周波数の有効利用や運用上の工夫で捻出するのが基本と考えます。</p> <p>ワイヤレスブロードバンドの利便性や経済効果の追求だけでなく、国民の財産、生命、安全、安心の面からも考慮された計画が望まれます。</p>
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題	<p>地上デジタル放送への完全移行とアナログ放送終了に伴う跡地（730～770MHz）、および放送事業用固定局の移行（3.4～3.6GHz帯）で、放送事業者としてもワイヤレスブロードバンドの高度化に協力しております。これらの周波数帯の早期活用計画の推進が必要と考えます。</p> <p>また、800MHz帯のFPUの高度化については、デジタル放送でのハイビジョン移動伝送に有効であり、周波数の有効利用にも繋がります。本格的なデジタル放送の時代を迎えて放送事業者の要望も高く、「周波数再編アクションプラン」の方針にもあるように早期実現が望まれます。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	<p>国内の800MHz帯は放送事業用として、FPUや特定ラジオマイクで使用しています。FPUとラジオマイクは周波数を共用しての運用で、すでに効率的な周波数利用をしています。ラジオマイクはデジタル化により更なる効率化を果たしており、またFPUは今後ハイビジョン伝送を可能とすべく推進しているところです。</p> <p>FPUは800MHz帯特有の電波伝搬特性からマラソンなどの移動中継に活用されており、これが使えなくなることの影響は甚大です（中継規模の拡大、番組制作費の高騰など）。また、緊急時の災害報道などでは中継回線の確保にきわめて有用であり、結果、国民の知る権利、安全、安心に報道機関としての使命を果たすことができています。</p> <p>ワイヤレスブロードバンド用の周波数割り当てについては、放送事業者の電波利用による国民への貢献度（生活インフラを守る重要性等）を多角的に勘案されたうえで慎重に検討されることを望みます。</p>
(4) その他、将来のワイヤレスブ	

ロードバンドによるサービス やシステムに関する事項	
------------------------------	--